平成26年度
NO. 10
1月30日発行
2月号

仲町だより

なかよく
まなぼう
ちからいっぱい

練馬区立仲町小学校

寒さに耐え大きな花を

副校長　檜垣　盛喜

「1月は行く。2月は逃げる。3月は去る。」というように年度末を迎えるこの時期になると、毎年、時が過ぎ去るのをとても早く感じてしまいます。

気がつけば、もう2月です。2月に入ると暦の上では春を迎えます。今年は、2月4日が立春ですが、春とはいえ、まだまだ気温が低く寒い日々が続いています。早く暖かい春が来ないかと待ち望んでいる方も多いことでしょう。

さて、このように寒い冬ですが、自然の木々にとっては、この寒さが、とても大切な役割を果たしています。春に美しい花を咲かせる桜を例に挙げてみます。

桜の開花には、「休眠物質」という桜の芽吹きを眠らせる働きをしている物質が関係しています。花が散り、葉桜となる頃、緑の葉は太陽の恵みを受けてたくさん休眠物質を作ります。葉が落ちた後は、つぼみが芽吹くところに休眠物質がぎっしりつまった状態になっているそうです。休眠物質があると花は咲きません。寒さによって休眠物質は分解されてなくなるので、夏のように気温が高い日や秋の穏やかな陽気のうちは、桜は開花しないそうです。

だから、桜が開花するためには、冬の寒さが必要なのです。寒さが厳しい年ほど、暖かくなるとすぐに開花をするそうです。このように桜が開花するには、冬の寒さも大切な役割を果たしています。

子供たちの成長にも同様のことが言えるのではないでしょうか。子供たちにとって十分な栄養や睡眠を取ることは、とても大切なことです。体のコンディションがよくないと、集中力を欠き、学習内容を理解したり、よい結果（開花）を生み出したりすることはできません。

また、木々が冬の厳しい寒さに耐え開花に備えるように、子供たちには、厳しい試練があってこそ、大きく成長させていくことができるのではないかと思います。簡単なことばかりで満足していては、それ以上の成長はありません。困難な壁を乗り越えていってこそ、大きな成長（開花）を得ることができるということです。

今年の冬は、年末から寒い日が続いてきたので、桜の開花は早いかもしれません。

仲町小学校の子供たちの花の開花はどうでしょうか。それぞれが、学年当初やこのお正月に立てた目標があると思います。自分に厳しいくらいの目標に見直し、努力を重ね、乗り越えていくことで、成果として大きな花を咲かせていってほしいと思っています。この2月、3月で満開の花が咲き乱れることを楽しみにしています。